

「ステリアにつ  
に企画を詰め  
成は二〇一八  
定。「実際の  
も、「若い女  
定対象に關す  
は多くの手間  
掛かります。  
大ということ  
若い女性の目  
に対するアイデ  
でできますし、  
からもアンケ  
こと、より  
しを見据えた  
文になります。そ  
界としても「  
積になってい  
二つ」。

学部現実の折り合  
住宅  
学生建築学科とい  
(黒計図を引いて  
長)た。一方産  
らのロジエクトで  
た。「が実際に形に  
理運面に携わること  
のリ予算の關係で  
い女件が変わった  
生の制約があった  
實際の異なる考え  
れ、り、施主の都

合で提案が変更されたり  
。この中で、学生たち  
は葛藤しつつ、設計と現  
実の折り合いをつけてい  
く。

「実際の建築の現場で  
も、設計図を引いた「そ  
の後」こそが重要になり  
ます。必ずしも提案通り  
には行かず、常に施主や  
関係者とコミュニケーション  
を図りながら計画を  
前進させていくという、  
ある意味での人間力が試  
されることになります。  
コマジョクリエでは、連  
携企業や施主とのやり取  
りを通してこうした能力  
を学生自身が身に付け  
ていきます」。

「コマジョリノベが始ま  
ってから、志願者の増加  
にも繋がった。オープン  
キャンパスでは、「この  
プロジェクトをやりたい  
い」とアピールする高  
校生も増えた。そして、  
就職活動においては、提  
案が採用された学生は大  
手企業に就職したりもし  
ている。

コマジョリノベ・クリ  
エ

工の大きな特徴は、正課  
教育の中で行われている  
ことであろう。従って、  
一週間に一度の授業、そ  
してプロジェクト期間は  
授業のある期間内という  
制約がついている。連携  
企業はここに理解を示  
し、学生たちの取り組み  
に歩調を合わせてくれて  
いる。産学連携教育にお  
いては、連携先の教育へ  
の深い理解がなければ、  
正課の中で行うことは難  
しい。「コマジョリノ  
ベ・クリエは我々教員に  
とって大きな自信に繋  
がりました。大学はどう  
やって社会に貢献してい  
けるのか、学生は単に学  
ぶだけではなく「提案で  
きる存在」だと認識でき  
ました」。教員は連携企  
業と密に連絡を取りなが  
らスケジュールを組んで  
いく。こうした産学連携  
教育を進めていくこと自  
体がFDでもあると大学  
から認められてもいると  
いう。

佐藤教授は最後にこう  
結んだ。「偶然にも毎年  
途切れなく連携のオフア  
ーがあり、リノベ・クリ  
エと続けられました。通  
常の授業で行っているの  
で拡大はなかなか難しい  
ですが、学生の成長や提  
案力の向上にも結びつき  
本学科の看板授業にもな  
っています。企業のニー  
ズに考えられる限り今後  
も行なっていきたいで  
す」。

### 東大など 教育改革実践の動画

#### JREC-INサイトに公開

昨年まで大規模公開オ  
ンライン講座(MOO  
C)提供サイト「eac  
o」において開講され  
ていた「インタラクティ  
ブ・ティーチング」が、  
五月二十三日よりJREC  
-IN Portal上の「研  
究人材のためのe-Lear  
ning」のコンテンツ  
として公開された。JRE  
C-IN Portalは、科  
学技術振興機構が運営す  
る「研究者・研究支援  
者・技術者等の研究人材  
のキャリア形成・能力開  
発を情報面から支援する  
研究人材のためのポー  
タルサイト」。

「インタラクティブ・  
ティーチング」は、学生  
の主体的学びを促す教育  
について学ぶ実践的な内  
容の講座であり、東京大  
学大学総合教育研究セン  
ターと日本教育研究イ  
ンitiativeが企  
画・開発したものであ  
り、もとの動画や資料が  
ほぼそのまま移植され  
ている。

全八レッスンで構成さ  
れ、各レッスンには自己  
診断テストがあり、全て  
を修了すると、修了通知  
をダウンロードするこ  
とができる。受講には、登  
録が必要であるが誰でも  
受講可能である。

登録方法等の詳細につ  
いては、JREC-IN Po  
rtalのWEBサイトを  
ご覧いただきたい。高等  
教育関係者の訪問が多い  
同サイトでの公開を機  
に、「インタラクティ  
ブ・ティーチング」がよ  
り多くの方の元に届けば  
幸いである。

(東京大学大学総合教  
育研究センター 特任研究  
員 中村長史)

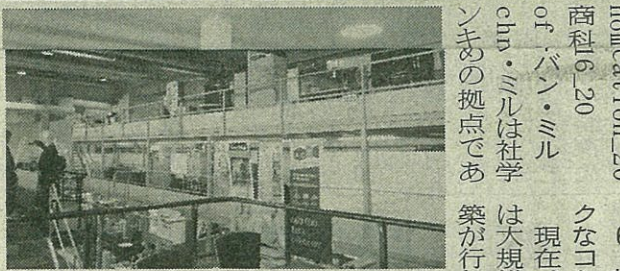
能である。現  
在、五大陸に  
一〇大学の協  
筆定校がある。  
大学日本はまたな  
や大い。3Dプリ  
ョンタ、ものつ  
を目く機器、パ  
日かソコンなど、  
革新作業に必要な  
てい機器は一通り  
ウル。キッチン  
学にウンターもあ  
施し

のF\issuu.com  
は、esignfact  
られ's annual  
ン教

6. 新しいアカデミック  
なコミュニティづくり  
現在、アールト大学で  
は大規模なキャンパス増  
築が行われている。これ  
に伴い、トラ  
ムや地下鉄の  
駅も開設予定  
である。空港  
や中心部から  
のアクセスも  
飛躍的に良  
なる。これは  
単なるキャン  
パス増築では  
なく、これを  
機会にアカデ  
ミックなコミュニ  
ティを創り上げよう  
という壮大なグラ  
ンドデザイン  
のものである。  
上記したすべ  
ての取組みはこ  
こに集約され  
る。正確には大学の教職  
員が運営しているのでは  
なく、企業が請け負って  
運営している。この場合  
多く利用するのは、大学  
教職員、学生、そして行  
政(主にヘルシンキ市、  
エスポー市)、企業であ  
る。アイデアとしてはデ  
ザイン・ファクトリーと  
似たようなもので、研  
究、教育、社会学連携の機  
能を統合した場ではある  
が、都市開発やコミュニ  
ティの発展に関する取り  
組みが集約されている。  
施設設備はデザイン・  
ファクトリー同様、倉庫  
のような印象である。そ  
の理由は明確で、設置当  
初、予算はゼロから始ま  
ったからである。家具や  
器材も寄付により賄われ  
ている。

これに対応させる形  
で、FDの在り方も変化  
していくことが予想され  
る。アールト大学にお  
いても、ソーシャル・イ  
ンitiativeを起す能力  
開発を行うFDプログラ  
ムは確立していないが、  
領域横断的なプロジェク  
トに学生や社会人とも  
に教員を参加させること  
自体がFDとして機能し  
ているように思われた。

(おわり)



「新しいアカデミックなコミュニティづくり」のコンセプトを体現したアールト大学のキャンパス増築プロジェクトの現場。写真には、広々とした空間と、最新の設備が印象的だ。

「新しいアカデミックなコミュニティづくり」のコンセプトを体現したアールト大学のキャンパス増築プロジェクトの現場。写真には、広々とした空間と、最新の設備が印象的だ。